

安全データシート

改訂日：2024年4月11日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

鉄，粉末（電解） 200mesh電解鉄粉
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06) 6231-3555（大阪・本社）
(03) 3246-2311（東京） (0268) 22-5910（上田）
(052) 504-2221（名古屋） (082) 537-0290（広島）
DD0100

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体：区分1
急性毒性（吸入：粉じん）：区分4

* 記載のないものは「分類対象外」、「分類できない」または「区分外」。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

注意書き

危険
可燃性固体
吸入すると有害（粉じん）
【安全対策】
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
涼しいところに置くこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【応急処置】
火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
【保管】
日光から遮断すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
皮膚／眼を刺激する。
皮膚への接触：発赤

GHS分類に該当しない他の危険有害性

重要な兆候及び想定される非常事態の概要

3. 組成、成分情報

化学品・混合物の区別

化学名又は一般名

別名

化学式

CAS RN

成分及び含有量

官報公示整理番号（化審法/安衛法）

危険有害成分

GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物

その他

化学品

鉄

電解鉄粉

Fe

7439-89-6

95%以上

対象外

該当情報なし。

該当情報なし。

HSコード：7205.29

4. 応急措置

吸入した場合

口をすすぎ鼻をかませる。新鮮な空気のところに移動させる。気分が悪い時は医師の診断／手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服を脱がせる。多量の水かシャワーで皮膚を洗い流す。皮膚への刺激が続く場合、医師の診断／手当てを受ける。

眼に入った場合

数分間多量の水で洗い流し（できればコンタクトレンズを外して）、医師の診断／手当てを受ける。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。多量の水を飲ませて吐かせる。気分が悪い時は医師の診断／手当てを受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状
応急処置をするものの保護
医師に対する特別な注意事項

該当情報なし。
該当情報なし。
該当情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤

乾燥砂、粉末消火剤（金属火災用）

使ってはならない消火剤

二酸化炭素消火剤、棒状注水、泡消火剤

特有の危険有害性

空気や酸素の存在下に置いて機械的摩擦による発熱で着火することがある。

燃焼中に注水すると水素が発生し、水素爆発を起こし燃焼鉄粉を飛散させる。

空気中での粉じん濃度がある値以上になると、着火源により着火し粉じん爆発することがある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。移動可能な容器は、速やかに火災、熱源から安全な場所に移動する。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

粉じんが発生しないように注意する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び
緊急時措置

作業の際には適切な保護具を着用し風上から作業して、風下の人を退避させる。

保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用する。

環境に対する注意事項

漏出等した製品を環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じん発生に注意して工業用バキューム等で回収する。

二次災害の防止策

放電火花を発生しない道具を用いる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排気、全体換気等）

『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

適切な保護具を着用する。

取扱い後は、手と顔をよく洗うこと。

汚染された作業衣等は作業場から出さないこと。

接触回避

強酸化剤、酸、熱源。

衛生対策

作業中は飲食／喫煙をしない。

作業後は、うがい、手洗い、洗顔を行うこと。

保管

安全な保管条件

施錠して保管する。

高温多湿、直射日光、雨濡れを避け、乾燥した冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料

密閉容器で保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度（出典）

日本産業衛生学会

未設定

参考：酸化鉄：1mg/m³（吸入性粉じん）

酸化鉄：4mg/m³（総粉じん）

未設定

ACGIH

参考：酸化鉄：5mg/m³（呼吸性粒子）

設備対策

局所排気装置を設置する。全体換気装置の設置が望ましい。

密閉された装置、機器を使用する。

洗眼器、安全シャワーを設置する。

保護具

呼吸用保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護具
特別な注意事項

防塵マスクを着用する。
ゴム手袋を着用する。
ゴーグルを着用する。
作業着（長袖）、安全靴を着用する。
該当情報なし。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態
色
臭い
融点・凝固点
沸点又は初留点及び沸点範囲
可燃性
爆発下限界及び上限界/可燃限界
引火点
自然発火点
分解温度
pH
動粘性率
溶解度
n-オクタノール/水分分配係数
蒸気圧
密度及び/又は相対密度
相対ガス密度
粒子特性

粉末
黒色
無臭
1535℃
3000℃
該当情報なし。
該当情報なし。
該当情報なし。
該当情報なし。
該当情報なし。
該当情報なし。
不溶
該当情報なし。
該当情報なし。
7.84
該当情報なし。
該当情報なし。

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性
危険有害反応可能性

常温常圧で安定。
希酸には水素を発生し、鉄(II)塩を生じる。
空気や酸素の存在下において機械的摩擦による発熱着火することがある。湿気を含んでいると着火しやすい。
空気中での粉じん濃度がある値以上になると着火源により着火するようになる。
微粉鉄は空気中で爆発性粉じんを形成することがある。
高温、湿気（水分）、混触禁止物質との接触。
塩素、ふっ素、過酸化水素、二酸化窒素、りん、NaCl₂、硫酸、酸素、水、ポリスチレンと激しく反応する。
該当情報なし。

避けるべき条件
混触危険物質

危険有害な分解生成物

11. 有害性情報

急性毒性

経口：EUDSD分類ではR-Phrase20（飲み込むと有害である）となっており区分4に相当するが、経口-ラットLD50が30000mg/kgであることから区分外とした。

経皮：該当情報なし。

吸入：EUDSD分類ではR-Phrase22（吸入すると有害）となっており区分4に相当する。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性
呼吸器感受性又は皮膚感受性
生殖細胞変異原性
発がん性
生殖毒性
特定標的臓器毒性（単回暴露）
特定標的臓器毒性（反復暴露）
吸引性呼吸器有害性

皮膚を刺激する。（データ不足の為、分類できない）
眼を刺激する。（データ不足の為、分類できない）
該当情報なし。（分類できない）
該当情報なし。（分類できない）
該当情報なし。（分類できない）
該当情報なし。（分類できない）
該当情報なし。（分類できない）
該当情報なし。（分類できない）
該当情報なし。（分類できない）

12. 環境影響情報

生態毒性

短期：該当情報なし。

長期：該当情報なし。

残留性・分解性
生体蓄積性
土壌中の移動性
オゾン層への有害性

該当情報なし。
該当情報なし。
該当情報なし。
該当情報なし。
当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物
汚染容器及び包装

金属スクラップとして専門業社に依頼して処分する。
産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号
品名（国連輸送名）
国連分類
容器等級
海洋汚染物質

3089
金属粉末（可燃性）
4.1 （容器等級Ⅱであり可燃性固体区分1に相当）
Ⅱ
該当しない。

国内規制

輸送又は輸送手段に関する特別の
安全対策
応急措置指針番号

運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷
がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。
170

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法（PRTR法）
毒物及び劇物取締法
労働安全衛生法

指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物に該当しない。
名称等を表示し、又は通知すべき有害物〔施行令別表9〕に該当し
ない。

消防法

危険物第2類 可燃性固体 鉄粉

1 6. その他の情報

引用文献

政府向けGHS分類ガイダンス
経済産業省HP
The-Sigma-Aldrich Library REGULATORY and Safety Data Vol. 3

化学品の分類及び表示に関する世界中和システム（化学工業日報
社）

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値では
ありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情
報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅
した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。